

■特選

◆小学校高学年の部

◇私にとっての「十年屋」 大阪狭山市立第七小6年・多和愛生さん

本屋さんでこの本を見つけた時、一番最初にじいちゃんを思い出しました。じいちゃんが亡くなって、ちょうど十年が経つからです。私はまだ一歳だったので、亡くなった時の事は覚えていませんが、最近お母さんや、ばあちゃんが、「もう十年やなあ」「まだ十年か」と、「十年」とよく言葉に出していたので、この本が目にとまったのかも知れません。表紙の絵にも心をつかまれ、読んでみたいと思いました。

この物語は、守りたい物や、遠ざけたいのになぜか捨てられない物などがあると、十年屋というお店からカードが届きます。そのカードを開くと、お店に通じていて、大切な物を、寿命一年と引きかえに、十年間預かってくれるという魔法のお話です。

この本には、色々なストーリーが書かれています。捨てられそうになった大事なぬいぐるみや、大切な人が撮ってくれた写真、大好きな女の子にあげたかった雪だるま、うらやましくて盗んでしまった友達の指輪、孫に渡したかったおじいちゃんからの時計、みんなそれぞれの思いで、十年屋を訪れていました。また、物だけではなく、その時の思い出や感情も預かってくれるので、十年後、保管期間終了を伝えるカードが届くと、忘れていた記憶が思い出され、幸せな気持ちや、後悔した気持ちなどがよみがえってくるのです。

私にとって、一年の寿命を支払ってでも、十年間預かってほしいものは何だろうと考えました。妹に狙われている、キャラクターのグッズ。これくらいじゃ十年屋からカードは届かないかなあと考え直しました。点数の悪いテスト。怒られたら、寿命二年は縮まるので、是非預けたいですが、これもカードは届かないと思うので、あきらめます。

預かってほしい物はなかなか思いうかばないけど、もしかすると、覚えていないだけで、実は昔何かを預けているかも知れない。そしてもうすぐ、保管期間終了のカードが届くかも知れない。そんな事を想像すると、わくわくしてきます。それが、じいちゃんとの何かだったらうれしいなあと思います。

この本を読んで、じいちゃんと過ごした時間をもっと思い出したくなりました。私はじいちゃんの事がとても大好きだった事は覚えていますが、遊んだ記憶はほとんど覚えていません。時々すごく悲しくなります。でも、赤ちゃんのころの私と、楽しそうに遊んでいるじいちゃんの写真やビデオを見ていると、その時の思い出やエピソードを、家族が話してくれるので、十年前に戻ったような幸せな気持ちになります。

十年屋は、大切な物や思い出を預かってくれるお店だけど、私にとっての十年屋は、十年前の思い出を聞かせてくれる家族です。私はこの家族を、これからもずっと大切にして、私自身も家族にとっての十年屋でありたいと思います。（「十年屋 時の魔法はいかがでしょう？」 廣嶋玲子／静山社）